

2026年度 九州大学大学院統合新領域学府  
ライブラリーサイエンス専攻修士課程入学者選抜試験（3次募集）

小論文問題冊子

試験時間 120分

注意事項

1. 試験開始の合図のあるまで、この問題冊子は開いてはいけません。
2. 試験開始後ただちに、「小論文」問題（1枚）、解答用紙（5枚）、下書き用紙（4枚）が揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべて（5枚）に受験番号・氏名を記入してください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。ホッチキスは外さないでください。
5. 配布された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
6. 下書きをしたい場合は、下書き用紙を利用するか、問題冊子の余白（裏面等）を利用してください。
7. 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は回収します。

## 問題

近年、オープンサイエンスやオープンデータの潮流を背景として、研究データを公開・共有する取り組みが広がっている。研究データを公開することで、研究の透明性を高めたり、将来の第三者による再利用を促進したりすることが期待されている。研究データを公開・共有する際には、その内容を説明するためのメタデータが重要となる。メタデータとは、研究データのタイトル、作成者、作成時期、データの概要、測定方法や条件、キーワードなど、データそのものを理解・利用するための補足情報である。一方で、研究データのメタデータを詳細に整備することには時間や労力がかかり、データ提供者である研究者にとって大きな負担となる場合も少なくない。そのため、すべての研究データに対して十分に詳細なメタデータを付与することは、必ずしも現実的ではない。では、将来の第三者による再利用を想定した場合、研究データのメタデータはどの程度まで整備されていれば「十分」だと言えるだろうか。あなたの考えを、研究データを利用する立場と研究データを作成・公開する立場の両方を踏まえて 1200 字程度で論じなさい。なお、ここでいう「十分」とは、理想的で完璧な状態ではなく、現実的に妥当だと考えられる水準を指すものとする。